三雲・井原遺跡番上地区３３０番地現地説明会資料

平成 28 年 3 月 5 日　　14:00～
糸島市教育委員会文化課

１．はじめに

２．調査成果の概要
・遺跡名　；三雲・井原遺跡番上地区（三雲３３０番地）
・主な遺構；土器溜り（弥生時代中期～古墳時代前期）、住居跡（弥生時代）、
　　溝（古墳時代中期）
・出土遺物；弥生土器・土師器・石器・鉄器・楽浪系土器・硯
・ポイント；①楽浪系土器の出土（総数 50 点以上）
　　②弥生時代の硯の出土

３．ポイント解説
①楽浪系土器の出土
福岡県教育委員会が調査を実施したⅡ－５では、わずか 88 ㎡の発掘面積で弥生土器が数百箱分出土している。そのなかに 27 点の楽浪系土器が出土し、器種は短頸壺、盆（大鉢）、椀、筒杯、杯、器台が見られる。平成 26・27 年度の調査（それぞれ 10 ㎡強の掘り下げ）では 20 数点分の楽浪系土器が出土し、総数 50 点をこえる見通しである。
楽浪系土器は対馬・壱岐・糸島という倭人伝ルートともいえる地域でみられるが、唐津では今のところ確認されていない。また、福岡平野では、近年、比恵・那珂遺跡等で確認されているが、いずれも１～３点程度の出土に留まり集中していない。
糸島地域は全国的にみて、楽浪系土器が集中する地域にあたるが、これらは、
◎海村ともいえる沿岸部の遺跡（御床松原・深江井牟田・今宿五郎江・潤地頭給）
◎やや内陸の拠点集落遺跡（一の町・三雲・井原）
に分類される。
北部九州で確認される楽浪系土器の出土傾向については、武末純一氏が以下の
対馬型；対馬の墳墓群にみられるように、１遺跡１～２点程度出土するあり方。
原の辻型；複数器種が出土して点数も多いあり方。ただ、出土状況は全体的に散漫に分布し集中箇所はない。一支国と伊都国と奴国の遺跡でのみ限られる類型。
三雲番上型；限られた調査面積で楽浪系土器が集中して出土するあり方。現在のところ、三雲番上Ⅱ－５地区のみ。渡来した楽浪人の集団的な居住（滞在）を示す。
の３種類に分類しているが、三雲番上地区の楽浪系土器の集中＝楽浪からの渡来人の滞在が想定されている。

また、『魏志倭人伝』には「(伊都国) では郡の倭国に使するや、皆、津に臨みて捜露し、文書・賜遺の物を伝送して・・・」とあることから、伊都国の沿岸部の遺跡で品物の検査等を行い、「郡使の往来常に駐まる所なり」とあることから、楽浪郡からの使者は楽浪系土器の集中度から三雲・井原遺跡に滞在したものと考えられる。

②弥生時代の硯の出土

【大きさ】　長さ；6.0 ㎝＋α、幅；4.3 ㎝＋α、厚さ６㎜

【出土地】　三雲・井原遺跡番上地区（330 番地）
土器溜り南北トレンチ０～20 ㎝下

【時　期】　弥生時代中期～古墳時代前期（土器溜りの時期と同じで特定できない）

【概　要】　中国では戦国時代末以後に硯が用いられるが、実際に普及したのは漢代とされる。材質は石製・金属製・陶製等さまざまであるが、石硯が圧倒的多数を占める。今回出土した硯は長方形板石硯で、漢代において最も出土量も多く、分布範囲も広い。吉田恵二氏によると 1993 年段階で中国だけでなく朝鮮半島やベトナムでも発見されている。なお、石材は粘板岩か砂岩系の物が多い。

なお、漢代は粉末状もしくは粒状の墨丸を硯の上で研石を用いて磨るため、現代の硯にみられる海等はない。

また、実際の使用例として、彩篋塚の事例を示すが、黒漆塗の座板に石硯を埋め込んで用いる。そのため、石硯の裏面は粗い加工で済まされていることや厚さが６㎜程度と薄く仕上げられることが形態的特徴として挙げられる。

【出土例】　日本では田和山遺跡（島根県松江市）の環濠出土例（石硯＋磨石）に限られており、本例は国内２例目となる。

【硯出土の意義】

①これまでも三雲・井原遺跡番上地区には楽浪郡から来た人々が滞在したことが想定されていたが、硯の出土により楽浪郡（中国）との正式な文書のやり取りや、銅鏡など下賜品に対する受領書・返礼書などが作成された可能性が高まった。つまり、楽浪郡からの使者が渡海する目的の一つが伊都国の王都とされる三雲・井原遺跡の訪問にあることが想定される。

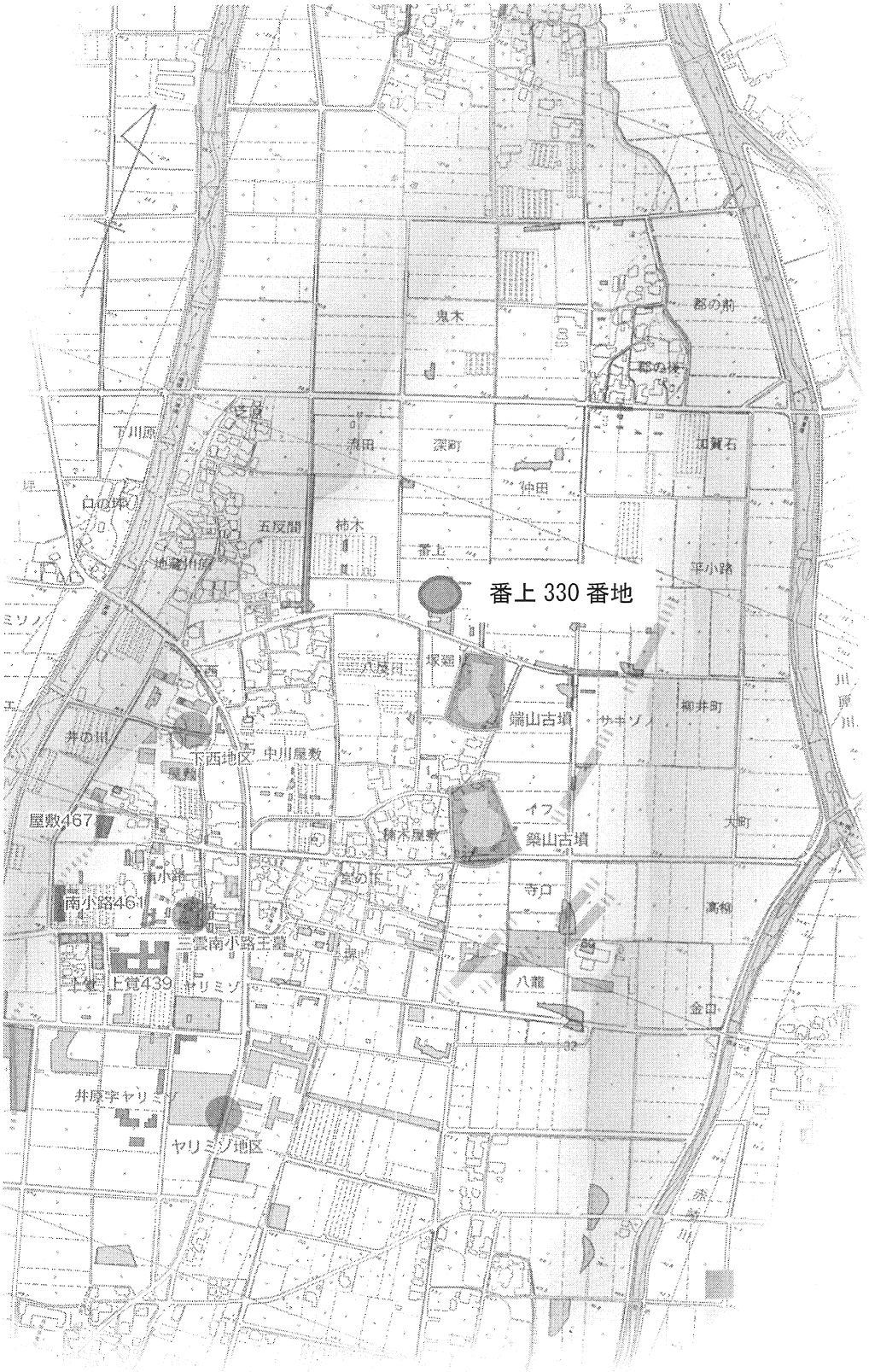
②『魏志倭人伝』には伊都国で文書（木簡）を取り扱った記事があるが、今回の硯の出土で記述の信頼性が高まった。

③朝鮮半島南部でも茶戸里遺跡で筆が出土し、半島南岸まで文書（木簡）が使用されていることは出土品から確認されていたが、筆は有機質であるため環境によっては残らないことが多い。今回の硯の出土は日本にお

ける文字文化の受容が弥生時代に伊都国で始まった可能性が高いことを示す。

４．出土品の展示について

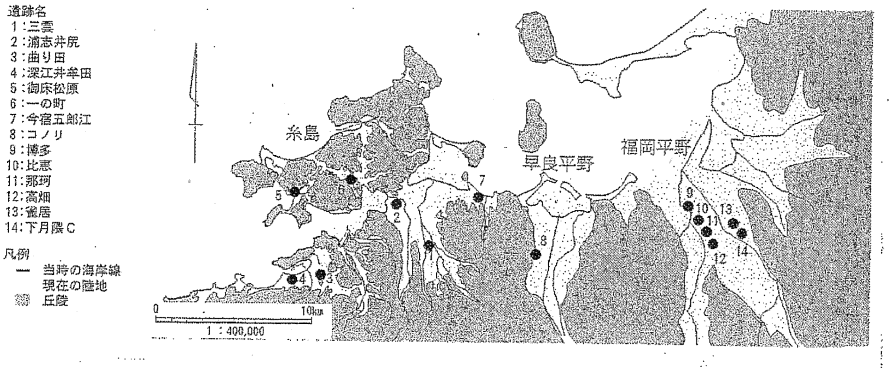
３月１５日～３月３１日まで伊都国歴史博物館で展示します。



第１図　三雲・井原遺跡全体図

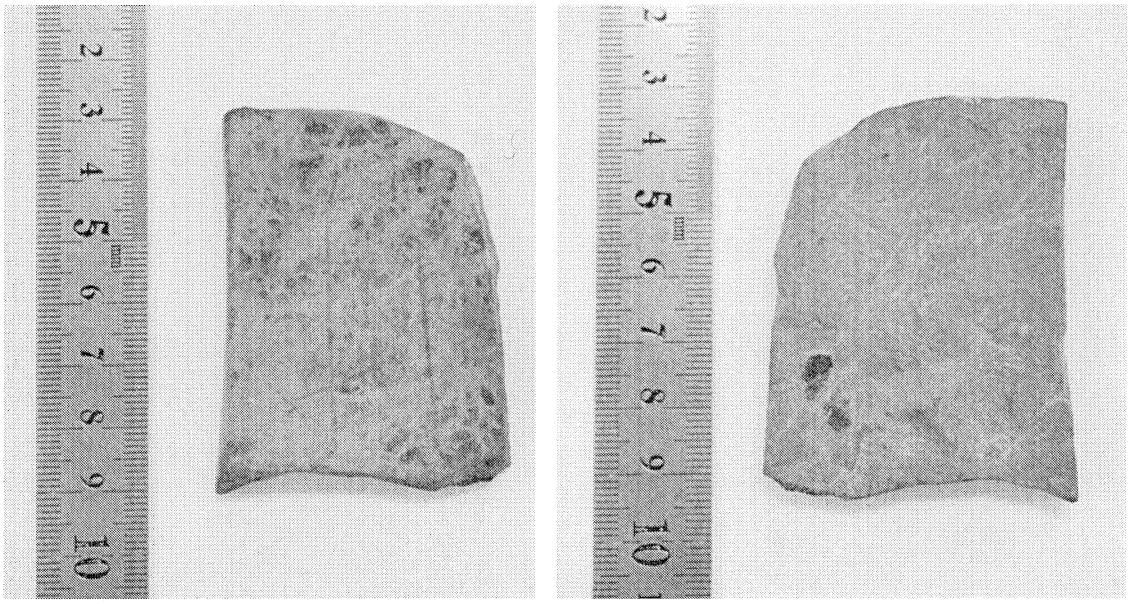
NO	遺跡名	遺構	器種	点数	時期	出典
1	三雲サキゾノ	Ⅰ-1区1号住居	胴部片	2	古墳前期	福岡県1982
2	三雲サキゾノ	Ⅰ-6・7区4号住居	胴部片	1	古墳前期	福岡県1982
3	三雲サキゾノ	Ⅰ-6・7区P10	胴部片、盆	8	弥生後期後半？	福岡県1982
4	三雲塚廻り	1号住居	短頸壺	1	古墳前期	福岡県1982
5	三雲番上	Ⅱ-6区6号住居	滑石混和土器	1	古墳前期	福岡県1980
6	三雲番上	Ⅱ-6区8号住居	短頸壺	1	古墳前期	福岡県1980
7	三雲番上	Ⅱ-5区土器溜り3層	短頸壺・胴部片・盆：椀・筒杯・杯・器台	27	弥生後期後半？	福岡県1982
8	浦志井尻		筒杯・椀	2		角2000
9	潤地頭給	Ⅲ-E大溝Ⅰ区上層	椀	1		前原市2006
10	潤地頭給	1号土坑	壺	1		前原市2006
11	御床松原	3層上部	短頸壺・盆・深鉢	4	古墳前期	志摩町1983
12	一の町		無頸壺・短頸壺・椀	11		志摩町2009
13	ウスイ	Ⅲ層		1	弥生後期前半～	志摩町2006
14	深江井牟田	Ⅰ区7号土坑	壺	1	弥生後期後半	二丈町1994
15	深江井牟田	Ⅰ区土器溜上層	短頸壺・壺・椀	13	～古墳前期	二丈町1994
16	曲り田3次		筒杯・椀	2	古墳前期	角2000

※このほか、福岡市域で元岡42次、今宿五郎江11次で確認されている。



第２図　糸島・福岡地区における楽浪系土器出土遺跡分布図（寺井 2007 より転載）

第３図　三雲・井原遺跡番上地区332番地（上）、330番地（下）★硯出土地点



第４図　三雲・井原遺跡番上地区330番地出土硯（右；表、左；裏）